

西中水れら



学校の教育目標：自ら学ぶ 共に生きる 努力一輪 4本柱：授業、挨拶、掃除、合唱

素直な心

校長 細井 孝治



2年生が福井研修、3年生が東京研修に行ってきました。日頃から、学校で大切にしている4本柱(授業:聞く・話す、合唱、挨拶、掃除:周りの人のために進んで動く)や時間行動など、学ぶ場所が変わっても、当たり前なことが当たり前に見える姿に、成長と頼もしさを感じました。その中でも、私が「さすが西中学校だ!」と、特に感心したのが、主体的な動きや仲間との協力です。先生まかせにするのではなく、見通しをもって自分たちで考え

行動する姿、仲間の思いを受け止め、力を合わせて精いっぱい活動し、楽しむ姿など、実に見事でした。毎日の学校生活や諸行事を通して培ってきた力を、しっかりと「出し切り!」、研修を成功させていこうとする2・3年生の姿が、とてもうれしかったです。

また、お世話になった方々や出会った方々から、「**素直な生徒たちで素晴らしい**」「**素直で心優しい生徒たちですね**」という言葉を多くいただきました。これは、生徒の素直な言動にふれ、感動されたことを物語る、非常に値打ちあるお褒めの言葉であると、私は受け止めています。民宿や体験先で交わす挨拶、話を聞くときの心構えや姿、尋ね方や感想の述べ方、心を込めて作っていただいた料理に、「美味しい!」と発する一言等に素直な心がにじみ出ていたのだと思います。

「**素直**」とは、「穏やかでひねくれているさま」「心の正しいこと」と広辞苑にあります。「他人の言うことを受け入れる様子」とある辞書もあります。つまり、「**人の話をきちんと受け止め、誠実に実行する**」ということです。

松下電器(現パナソニック)創業者の松下幸之助氏は、「**素直な心**」を非常に大切にされた方で、「**素直な心になるために**」というタイトルの本も執筆されています。氏は、「**人間が最も好ましい生き方を実現するには、それにふさわしい考え方や行動の仕方が大切で、その根底には『素直な心』がなくてはならない**」と言っています。つまり直面している状況から逃げないで正面から受け止め(斜に構えたりひねくれたりしないで)、それに適したことを精一杯にすることが大切なのだと言っておられるのです。氏の言葉を含めて考えると、「**生徒たちは、対面した人たちの思いをきちんと受け止め、それに応えるべく、その場にふさわしい言動を精一杯していた**」ということです。

多くの実業家や著名な成功者が、成功の秘訣の一つに「素直さ」を挙げています。素直さは、社会に出てほしい重要な資質であるということです。西中学校では、成長(成功)の源となるその資質を、これからも大切に育てていきます。

